

白血球・赤血球・血小板という細胞が、体内を循環し、それぞれ免疫・酸素運搬・止血という主な役割を担っていることは、ご存じかと思えます。これらの細胞を過不足なく産生・供給しているのが、その製造工場である骨髄です。この骨髄の形成に様々な異常を来すのが、骨髄異形成症候群です。

骨髄異形成症候群は、病気のメカニズムが非常に難しく、その一部が解明され始めたに過ぎません。例えばA型インフルエンザウイルスによるインフルエンザA感染症といった原因から病名がつくという分かりやすい状態にはまだ遠く、病気の性格付けをできるだけ細かく行って、世界保健機構(WHO)が提唱する分類に当てはめるといって診断を行っています。

骨髄異形成症候群の病気としての性格は、大まかに2つに分かれます。以前、くすぶり型白血病と表現されていた急性白血病に近いタイプと、骨髄全体的に元気がなくなってしまう再生不良性貧血に近いタイプです。華々しい進歩を遂げている医学の最先端でも解明されていないメカニズムを、医学的な知識が乏しいであろう患者さん・ご家族にある程度理解していただくため、実際の診療で、私は次のような比喻表現をとっています。

成症候群の方は、骨髄という工場に工員さんの居る数にかかわらず、壊れやすい不良品を作ってしまう。白血病に近い骨髄異形成症候群の方は、悪意を持った不良品を作る工員さんがいる。結果、出荷された社会、すなわち身体全体に積極的に悪影響を及ぼす状態で、得てして悪い工員がどんどん数を増やしていつてしまうのです。

貧血症状や出血傾向(青あざができやすいなど)で自覚する、あるいは、健診などの血液検査で、白血球・赤血球・血小板の数が様々な組合せで減少していることがきっかけとなり骨髄異形成症候群と診断される患者さんは、年々増えてきています。高齢化社会も一因ですが、歴史的に医学の理解が進んだことで、診断に至る患者さんが増えてきているという側面もあります。

治療に関してですが、病気のメカニズムが難しいこと、高齢で診断を受ける方が多いことから、有効な治療に乏しいのが現状です。根本的に治す方法は、骨髄を入れ替えてしまいう造血幹細胞移植しかありません。移植は、非常に高い危険性を伴う治療であり、ある程度以上の年齢の方は、危険性が有効性を上回ってしまいます。また、高齢者に多いため、実施できないことが多くなってしまっています。そこで、足りなくなった血液成分、赤血球や血小板を輸血とい

う形で補う、保存的治療が中心となってきました。一方、再生不良性貧血に近いタイプの患者さんでは、再生不良性貧血の患者さんに受けていた、免疫抑制療法が有効な場合があります。

「移植療法は有効だが、年齢的な制限で治療ができない」という限界を打破する目的で、ミニ移植という試みがあります。大まかには、強力な治療ではなく、免疫力を抑えておく程度の軽めの処置の後、ドナーさん(骨髄提供者)の細胞を移植して、拒絶を抑えつつ、時間をかけて免疫抑制を段階的に中止していくことで、骨髄の細胞が段階的に入れ替わっていくという方法です。ただし、この治療法は、いまだ実験的段階です。

最近になり、海外で有効性が確認されてきた新規治療薬が、国内でも使用可能になりました。いわゆる工ビデンス(科学的根拠)の明確な治療薬です。患者さんの生活の質が改善する、輸血の必要性が減る期待がある、あるいは急性白血病への進行を遅らせることができるといった効果が確認されています。しかし、この薬だけでは完全に治すことが期待できないことも分かっています。移植治療の進歩、病気の詳細な理解とそれに伴う新規薬剤の開発など、これからも着実な進歩が期待されています。

日曜・休日に実施している医療機関

午前10時～午後4時

月日	場所	施設名	科目	☎(048)	場所	施設名	科目	☎(048)	
8	7	志木	小児科皮フ科 村田医院	小・皮	472-3030	新座	梅沢皮フ科クリニック	皮	042-472-5118
	14	朝霞	朝霞駅東口たんば 内科クリニック	内・消内	450-2211	朝霞	福島眼科	眼	469-1006
	21	新座	静風荘病院	内・呼内・消内 ・循内	477-7300	新座	志木駅前眼科	眼	423-0702
	28	和光	田中医院	内・小・消内	461-2060	新座	飛田耳鼻咽喉科	耳	479-4062



※当番医は変更になる場合もあります。確認してからお出かけください。